

9/19 早福

### 周辺火山が大噴火したら

# 原子炉冷却不能か

## 非常用発電機目詰まり

### 5原発8基

原子力規制委員会の審査に合格した九州電力川内1、2号機（鹿児島県）など五原発八基で周辺の火山が大規模噴火して原発の外部電源が失われた場合、非

常用ディーゼル発電機が使用できなくなる可能性があることが十八日、規制委などへの取材で分かった。最悪のケースでは原子炉が冷却できなくなる恐れがある。噴

火時に想定される火山灰濃度が従来に比べ最大百倍程度高くなることが審査後に判明。電気事業連合会によると、五原発では、発電機の吸気フ

※電気事業連合会による	想定される火山灰濃度 (1立方メートル当たり)	発電機フィルターが対応可能な濃度 (同左)
美浜3号機 (福岡県)	約1.8%	約1.6%
大飯3、4号機 (福井県)	約1.5%	約1.1%
伊方3号機 (愛媛県)	約3.1%	約0.7%
玄海3、4号機 (佐賀県)	約3.8%	約0.9%
川内1、2号機 (鹿児島県)	約3.3%	約1.0%

原発に影響する火山灰濃度

で電源が失われた1～4号機では炉心溶融や水素爆発が起きた。

五原発八基は他に関西電力美浜3号機（美浜町）、大飯3、4号機（おおい町）、四国電力伊方3号機（愛媛県）、九電玄海3、4号機（佐賀県）。

規制委は、原発に影響する火山灰濃度の基準を現行より最大百倍程度高く見直すことを決めており、電力各社は、高性能フィルターへの交換など対応を求められそう。

この見直し基準を基に、電事連は噴火時の火山灰について、フィルターを交換するなど現状で対応可能な濃度と、大気中一立方メートルの実際の濃度を試算。二つの濃度の差が大きく、より目詰まりの可能性が高いのは、伊方3号機（対応可能濃度約〇・七％、実際の濃度約三・一％）や玄海3、4号機（同約〇・九％、同約三・八％）で、差が小さかったのは大飯3、4号機（同約一・一％、同約一・五％）などだった。